

定年後は“きょういく”と“きょうよう”が大事！？

最初に友人や関係者に送った年賀状をご紹介します。

明けましておめでとうございます。

「未年」の「羊」についてはいろんな定義がありますね。温かな動物であるとか、周囲の調和を乱さないとか…ちよつと変わって、眠れない時に羊を数える、なんて話もあります。「羊が一匹、羊が二匹、羊が三匹……」と数えているうちに夢の中に入っていけるらしい。



夢といえば、私はいつも年初めには「大きな夢を！」と呼びかけています。年老いて夢がないと、身体だけでなく心まで萎びてしまう。いつまでも、ときめきのある人生でいたいものです。

よく「定年後は“きょういく”と“きょうよう”が大事である」と——そんな堅いことじゃない。「きょう行くところがあるか」「きょうやるべき用事があるか」という趣意なのですね。5年後の東京オリンピックに私はボランティア通訳を夢見ています。そのために今年は通訳学校へも行こうかな、なんて…。

皆さまのご健勝をお祈り申し上げます。

2015年 元旦 清水 武

賀状でも触れていますが、羊は群れをなして行動するため、家族の安泰や平和をもたらず縁起物とされています。未年生まれの人は、穏やかで温かく、優しい。正義感が強く、真面目だとも言われています。

眠れないときに羊を数えるのは、イギリスが発祥だとか——。英語で羊のことを「sheep」といいますが、これが眠る意の「sleep」と似ているため、暗示をかける作用があるのだという。また、「sheep」の発音が寝息に似ていることから、「sheep」と言って息をはく行為がリラックスできるから、などの説もあります。……ということは、日本語じゃダメなのかなあ！？

ほかにも、羊のいる情景を思い浮かべると、牧歌的でリラックスできるから、羊を数えるという単調な作業で眠くなるから、といった説もあるようです。

諺にもいろんな形で出てきていますね。

羊頭狗肉（ようとうくにく）／羊頭を懸けて狗肉を売る

狗肉とは犬の肉のことをいい、羊の頭を看板に掲げながら、実際には犬の肉を売ってごまかすことから、見かけと実質が伴わないことのたとえ。立派なものをおとりに使い、実際は粗悪なものを売ることのたとえにも。



羊質虎皮（ようしつこひ） 羊に虎の皮を着せたよう

実際は羊なのに虎の皮をかぶっている意味から、外見だけは立派だが、それに実質が伴っていないことのたとえ。弱い者が強がったり、愚かな者が利口ぶること。

羊の皮をかぶった狼

外見は非常におとなしいが、本性はその逆であること。「赤ズキン」の話に似てますね。

亡羊の嘆（ぼうようのたん）／多岐亡羊（たきようぼう）

学問の道は多方面に分かれているため、真理に到達するのは難しいということ。転じて、

方針がいくつもあって選択に迷うこと。中国戦国時代、羊が一匹逃げた際、大勢の人が追いかけたが、道がいくつも分かれていたため取り逃がしてしまった。それに対して思想家の楊朱が「学問の道も同様に、いくつもの道に分かれているので、真の道がわからなくなる」と嘆いたという故事に由来しています。

・・・なぜか前向きな言葉が少ないですね。では最後に、昨年暮れの聖教新聞のコラム「名字の言」にあった人生を前向きに生きるための「積極的な言葉への言い換えのススメ」をご紹介します。

忙しい → 充実している

うまくいかない → 成功の途中だ

疲れた → よくがんばった

なるほど、このように言い換えることによって、考え方も生き方もグッと前向きになりますね。

元来、仏教の信仰の世界では、前向きに生きるための言葉が圧倒しています。

「**変毒為薬**」 毒を変じて薬と為す。つまりどんな障害も苦難も成長と幸福のためのバネとしていくことができる

「**宿命転換**」 どんな宿命（運命）も信仰の実践によって必ず良い方向に転換していくことができるという確信とその実践

「**願兼於業**」（がんけんおごう）仏法の力と正しさを実証するために、願って現在のような立場（問題を持って）生まれてきた。そのことを自覚して使命に目覚めたときには偉大な仕事を成し遂げることができるという意味



そのほか「大悪をこれば大善きたる」「宿命を使命に」「救われる人から悩んでいる人を救う人に」・・・といっぱいあります。

その究極は現代語で「人間革命」という言葉に収まるかもしれませんが。「一人の人間における偉大なる人間革命はやがて一国の宿命転換をも成し遂げ、さらに全人類の宿命の転換をも可能にする」——との小説のテーマは、人間自身が生命次元からあらゆる意味で良い方向に変わり、他の人も救い平和に貢献していく、という崇高な理念につながっていきます。

なんと壮大で夢あふれた生き方でしょうか。私の夢、長期目標は2030年の創価学会創立100周年まで、自身の間人革命と地域社会への貢献に精いっぱい頑張ること、そして中期的には5年後の東京オリンピックにボランティア通訳として「世界平和の祭典」に役立ちたい、との夢です。そのために今年に通訳学校に“いき”、語学の再勉強という“よう”を作りたい、と思っています。